

小説ユーミン

神村ふじを

「山手のドルフィン」は 静かなレストラン：♪」学生時代に出逢ったこの曲に憧れて、何年も前わざわざ横浜まで出掛けて行ったことがあった。山手のドルフィンとあったので、山手駅から歩いて行ったらとても遠くて、根岸駅から行った方が近いことがあとから分かった。

曲に出てくるような眺めが目の前に広がり、ソーダ水を通して貨物船を見てみたい衝動に駆られたが、何だかあまりにミハー過ぎて、静かにアイスコーヒーを飲んだことが今も悔やまれる。

店のマスターは客の風体を見ただけでユーミン目あてのお上りさんと分かるのだろう、気を利かせて「海を見ていた午後」を流してくれた。こういう客が日に何組か来るのだろうかと思った。

最近、山内マリコ著『すべてのことはメッセージ 小説ユーミン』を読んだ。冒頭の部分に左沢が出てくる。八王子の大きな呉服屋の娘として生まれたユーミンは、左沢生まれ（と読み取れる）（と読み取れる）のお手伝いさんの秀子さんを母親のように慕い、久々に里帰りをした秀子さんと一時も離れるのが

厭で、山形まで着いてきてしまったのだった。

結婚せずに家に残ることが悪であるかのように思われる時代にあって、秀子さんは二十代半ばになって、職を求めて上京する。その先が八王子にある「荒井呉服店」であった。

女性の名前は実名らしかったので、調べてみたら宮林秀子さんという人が実在していたことが分かった。また、左沢出身ではなくて、隣町西川町の月岡という集落の出身であることも分かった。というのも、私の友人の母親が秀子さんの隣家の出身であり、ユーミンの乳母代わりになった秀子さんのことをよく覚えていたのである。

聞くところによると、ユーミンは大人になってから逆に独身であった秀子さんを見守り続け、確かではないが、秀子さんはハワイで独身のまま生涯を閉じたということである。

「あのひとの ママに会うために：♪」 「魔法の宅急便」のDVDから「ルージユの伝言」が流れてきた。時折、春の強風が吹くこの時期、魔法にとっては幸か不幸か……。

春一番魔法は箒に猫乗せて ふじを

*山内マリコ『すべてのことはメッセージ 小説ユーミン』（マガジンハウス、2022年）